

会員の声

「見えにくい」けど「できる」に！

徳山医師会 新川 邦圭

最近、眼科で盛んに行われるようになってきたロービジョンケアについてご紹介したいと思います。眼科には視覚障害で困っている多くの患者さんがいます。幸いにして手術などで視力が改善することができれば happy ですが、少なからず視力障害を残したり、失明したりする患者さんもいます。以前なら、眼科的な治療を施して、もうこれ以上、視力の改善の見込みが無くなれば、積極的に患者さんのQOLの改善に関わることも無く、定期診察をする程度でした。治療する側の眼科医がこの有様ですから、当の患者さんも見えなくなってくれば、「もう私は何もできないんだ。」と自暴自棄になり諦めムードでした。

そのような現状がだんだんと変わってきています。山口県からも「視覚障害者用補装具適合判定医師研修会」という、ロービジョンに関する研修会に参加される眼科医が増えて、ロービジョンケアについて学ぶようになりました。そして、眼科

医、看護師や視能訓練士などの医療スタッフ以外にも、支援学校の先生や歩行訓練士さんといった関連職種の方々とのネットワークもだんだんと広がってきました。そんな中、下関医療センター眼科の福村美帆先生が代表となり、「やまぐちロービジョン勉強会」が立ち上がり、定期的に勉強会を開催するようになりました。活動の目的は、視覚障害の患者さんの「見えないからできない」を、「見えにくくてもできる」に変えることです。今までは、眼鏡をかけてルーペを使っても用をなさなければ、多くの患者さんは諦めていました。例えば、書類に名前を書くといった簡単な事さえ、「できない」と思っていたのが、タイポスコープという黒枠の厚紙をあてるだけで見やすくなり、ずいぶん書きやすくなります。

今年のやまぐちロービジョン勉強会の目標としては、眼科医会の後援で、山口県でもロービジョンケア対応施設を紹介するスマートサイトと呼



ばれるリーフレットを作成することにしています。これは、視覚障害で困っている方が、自分が困っていることを解決するには、まずどこに相談に行ったら良いかということを一覧にして、ロービジョンケアへの入り口を紹介しようというものです。日常生活に支障をきたしていても、視覚障害のため情報収集をすることも難しく、どこに相談したら良いか解らないという方が多いので、スマートサイトを都道府県単位で全国的に普及させようという気運が高まっています。パンフレットは山口県の眼科などを中心にご協力いただいて配布予定ですが、山口県医師会の他科の先生方にも視力障害でお困りの患者さんをご存じでしたらご協力いただけましたら幸いです。

小さな字が見えにくければ、視力の低下に応じて必要な倍率のルーペや拡大読書器、最近では iPad といった電子機器の普及が多くの視覚障害の方の福音となっています。視力低下以外にも、夜盲や視野狭窄や羞明など色々な視覚障害で日常生活に支障をきたしている患者さんはまだまだ多く、それぞれに対処方法があります。

また、網膜色素変性症を主とした夜盲の患者さんの為に暗所視支援眼鏡 (MW10) といったウェアブルデバイスも開発されており、6 月末にロービジョン勉強会主催の公開シンポジウムを開催した際に、他のロービジョンケア用品と共に体験会を開催しました。当日は大雨で県内の電車がほとんど運休になり開催が危ぶまれましたが、ロービジョンの方々には待望の企画だったこともあり、盲導犬を連れた参加者も含め会場に入りきれないほどの大盛況でした。

その他にも、ロービジョンケアでは、就学・就業相談や日常生活の工夫の指導など多種多様

なニーズがあり、これらを提供していくために、今後もさらに様々な職種の方々とのネットワークを広げて患者さんの QOL の改善に貢献したいと思っております。今後の予定などは随時、山口県眼科医会の HP 内でもご案内していこうと思っておりますが、ロービジョンケアにご興味をお持ちの先生がいらっしゃいましたら、是非、勉強会にもご参加ください。

山口県眼科医会 HP :

<http://www.yamaguchi.med.or.jp/g-med/>

[gankaikai/](http://www.yamaguchi.med.or.jp/g-med/gankaikai/)

やまぐちロービジョン勉強会事務局 :

下関市立市民病院 眼科

〒 750-8520 下関市向洋町 1-13-1

TEL : 083-231-4111

FAX : 083-224-3838

E-mail : kawk-s55ort@kf6.so-net.ne.jp

(担当: 視能訓練士 かわの 河野まで)



暗所視支援眼鏡 (HOYA MW10)



遮光眼鏡 (東海光学)